

平成 30 年度 第 1 回 福岡市総合図書館運営審議会 議事録

1 日 時：平成 30 年 10 月 3 日（水）10：00～11：45

2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第2会議室

3 出席者：委 員）青木理枝，阿久根健一郎，渡邊由紀子，国広奈穂子，萩尾憲子，張浩子，  
香川純子，高橋昇，白根恵子，脇川郁也，黒岩俊哉，青沼美撫子，桐研次郎  
（計 13 名）

職 員）飯田館長，中川事業管理部長，若山運営課長，宮川図書サービス課長，  
三浦文学・文書課長，八尋映像資料課長 他  
傍聴人）5名

4 議事録

1. 開 会

館長挨拶／委員紹介／職員紹介

2. 議 事

議事 1 会長，副会長選出

会長に高橋委員，副会長に萩尾委員を選出

議題 2 平成 29 年度事業報告について

委 員	新規登録者数，貸出利用者数，貸出冊数とも減少している。この減少に対して図書館はどういう施策をとっているのか。
事 務 局	貸出冊数は，全国的に減少傾向にあるが，返却ポストを設置するなど，より返却しやすい環境を作っている。また，貸出拠点として昨年度移転開館した，福岡市科学館での対応を開始したほか，平成 24 年度から有料宅配サービスを始めている。また，総合図書館と分館で様々なテーマを選び企画展示を行っている。
委 員	結果として減少傾向にある。貸出・返却拠点が少ないのが原因ではないか。公民館を拠点施設として業務委託できないか。早良区に新たな地域交流センターができると聞いているが，箱物を整備するほうが公民館を貸出拠点として借りやすくする場合よりも予算がかかると思うが，コスト比較は行ったのか。
事 務 局	早良地域交流センターは，7 区に市民センターとは別に地域の活動拠点として建設計画ができた。図書館だけの建設は難しく新しい施設が建設される時に分館を設置することが決まった。
事 務 局	公民館は，小学校区に 1 館あり身近にある施設で地域住民の活動の場でもある。公民館に図書の数多くないためそれを補完するため総合図書館の団体貸出の制度がある。
事 務 局	平成 26 年度に市民局の担当部署と貸出・返却拠点とするための協議を行った経緯があるが，物流コストがかかる，公民館は少ない人数で運営しており人員の確保が難し

	<p>い、図書館システムの機器を設置する費用がかかる等の課題があり、公民館での貸出は難しいと結論づけた。貸出拠点を設置する場合は持続可能である必要があるので、その点を踏まえながら考えていく。</p>
委員	<p>全ての公民館ではなく、数館で試行し、うまくいけば予算が取りやすくなるのではないかと。また、人員についてはボランティアで代替できないか。減少傾向を増加に転じるための手立てを考えてほしい。</p>
委員	<p>全ての公民館にスタンダード文庫の図書を備えた部屋はあるので、物流を整えば公民館で貸出や返却ができるのではないかと。早良区は縦に長い地形なので南部の住民は総合図書館や早良図書館に遠く来館しづらい。希望する公民館を募ることで検討できる課題ではないかと。</p>
委員	<p>勤務体制や物流コストなどで予算的に難しいと言うが、以前から運営審議会で意見が出ている。若い人の暮らしの中に図書を取り込めるように、郊外のショッピングモールに図書室を作るよう条例化を以前提案したこともあるが、再考してほしい。</p>
委員	<p>広域利用については知らなかった。以前住んでいた自治体では周辺6自治体で貸出カードを共通化していた。福岡市では予約者が多く借りるまでに時間がかかる本も、隣接する自治体の図書館では、すぐに借りることができることもあるので、他自治体の貸出利用も同一カードでできるようにしてほしい。</p>
委員	<p>本の予約冊数の上限を20冊にしてほしい。予約待ち期間が長いので10冊ではいっぱいになる。また、公民館に設置されている図書も、館によっては古い本しか置いていないところもあり、格差があるのでアンケートをとってほしい。</p>
事務局	<p>貸出カードの共通化については、各図書館でシステムが異なるので同一貸出カードでの貸出はできない。都市圏全体が同じシステムを使うのは難しく福岡市だけでは決められない。予約冊数の上限については検討したい。</p>
事務局	<p>公民館での図書利用については、各公民館で異なってくる。スタンダード文庫に加えや地域からの寄付などがある館もあるほか、公民館で活動する団体貸出の登録が61団体あり、読書活動団体がある地域とない地域では状況が異なる。</p> <p>団体登録のない公民館をどう巻き込んでいくかが今後の課題であり、読書活動の機運を醸成するよう支援を行っていきたい。</p>
委員	<p>レファレンスサービスの反応はどうか。</p>
事務局	<p>メールレファレンスを平成28年度から開始した。図書館ホームページのトップページにある「電子メールでの相談」から申込みできる。相談件数は、平成28年度が15件、平成29年度は46件で増加傾向にある。</p>
委員	<p>映画フィルムの所蔵状況について平成28年度が平成27年度に比べ減っているのは何故か。</p>
事務局	<p>寄贈時は、同じタイトルが混じっていることがある。1タイトルを1本としている。寄贈数は、寄贈時に1本とカウントするがチェック後同じタイトルがあるとその都度、減と修正している。</p>

報告事項 平成 29 年度福岡市総合図書館の運営に関する評価について  
 (福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議の報告)

委 員	東図書館は、開館時間が長く重宝している。総合図書館は開館時間が延長したにも関わらず入館者数、貸出冊数に反映していない。点検評価会議委員の意見にあるように開館時間の延長は立地に合わせたらどうか。総合図書館が平成 28 年度に開館時間を 1 時間延長した 19 時から 20 時までの入場者数、貸出冊数はどのくらいか。
事 務 局	入場者数が 1 年間で 13,324 人。貸出冊数は 1 年間で貸出冊数全体の 3.1%であり 42,000 冊の貸出数である。
委 員	費用対効果としては厳しい気がする。

その他

委 員	総合図書館と分館では図書の入替は行っていないのか。
事 務 局	図書の入替は行っていない。各分館で選書を行い排架している。
委 員	早良地域交流センターにできる分館は、東図書館と同様に指定管理者選定・評価委員会ができるのか。P F I 方式だと別の委員会ができるのか。
事 務 局	建物の建設は P F I 方式だが図書館運営は P F I 方式はそぐわない。現在、運営については決まっておらず東図書館の評価を見ながら決めていく。委員会の立ち上げも決まっていない。

3. 閉 会

事業管理部長挨拶／事務連絡